

内水面水産試験場の コイ種苗出荷量と県内養殖業生産量について

1. 背景

内水面水産試験場（以下、内水試）では、試験研究を行う中で、コイ種苗を養殖業者へ供給してきました。一方で、これまで供給した種苗がその後の生産にどの程度寄与しているか不明でした。そこで、内水試のコイ種苗出荷量と福島県内のコイ生産量を整理し、養殖業者からの聞き取り情報からコイ生産量に占める内水試コイ種苗の割合を推定しました。

2. 材料と方法

H23～R5年の漁業・養殖業生産統計（農林水産省）から、内水面養殖業のうち全国及び福島県のコイ生産量を集計しました。

H30～R6年の内水試コイ種苗総出荷尾数と全雌コイ出荷尾数を集計しました。

南東北内水面養殖漁業協同組合からの聞き取り調査で、H27～R3年の生産量に占める年齢別生産量の割合、出荷時の平均重量、種苗から出荷までの生残率を調査しました。

集計したデータと聞き取り調査の結果から、内水試コイ種苗の出荷時の年齢別重量を算出し、コイ生産量に占める割合を求めました。

3. 結果

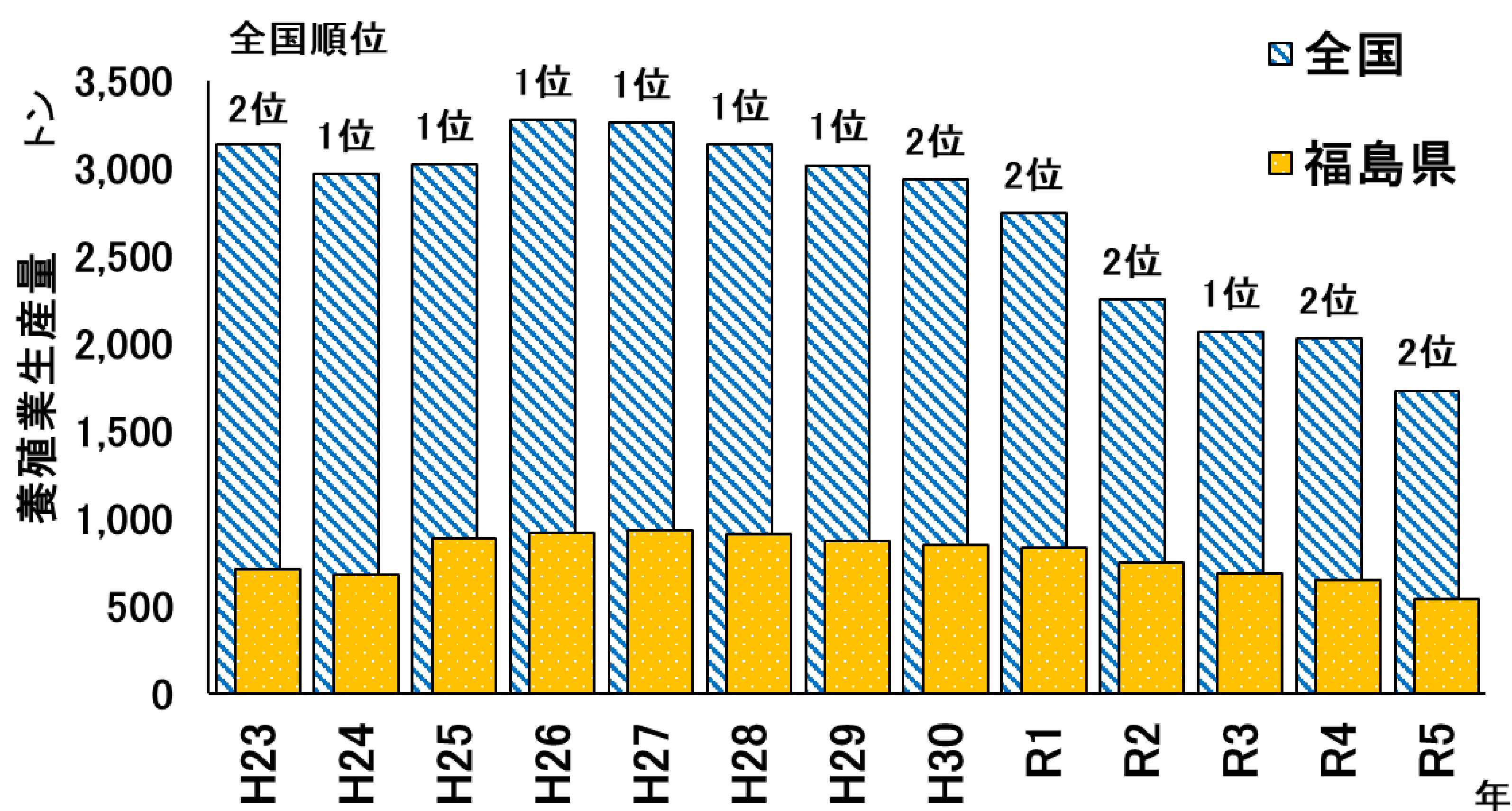


図1 全国及び福島県のコイ生産量の推移と全国順位

表2 コイ生産量に占める内水試出荷種苗の割合

年	内水試種苗分				④県内養殖業 生産量（kg）	重量割合 （③/④）
	種苗出荷量 （尾）	①2歳魚	②3歳魚	③（①＋②） 合計（kg）		
		生産量	生産量			
		換算値（kg）	換算値（kg）			
H27	170,000	※ 濃淡で同じ生産群を表した。			932,000	
H28	236,000				912,000	
H29	316,000	142,800		142,800	871,000	16%
H30	300,000	198,240	102,000	300,240	846,000	35%
R1	685,000	265,440	141,600	407,040	830,000	49%
R2	240,000	252,000	189,600	441,600	744,000	59%
R3	328,000	328,800	180,000	508,800	683,000	74%

▷以下の聞き取り調査結果から生産量換算値を計算した。

①内水試種苗は生産までに8割が生残した。

②H27～30年の種苗は「2年魚（1.5kg）：3年魚（2.5kg）＝7：3」で出荷した。

③R3年は売り上げ減少により、R1年の種苗は「2年魚（1.5kg）：未出荷＝4：6」とした。

- ・ 全国のコイ生産量はH27年以降減少傾向にあります。福島県のコイ生産量は全国1位か2位となっています（図1）。
- ・ H30年以降R5年まで20万尾以上の種苗を供給し、全雌は約1～3割占めていましたが、R5以降は魚病等の影響により生産が不調でした（表1）。
- ・ H27～R3年の生産量で内水試由来の種苗が占める割合は16～74%、重量で142,800～508,800kgでした（表2）。

4. まとめ

- ・ コイ生産量に占める内水試種苗の割合は年々増加し、R1年が49%、R2年が59%、R3年が74%で推移しました。福島県の養殖業界にとって、重要な供給源であることが分かりました。
- ・ 今後、県内の生産量を維持し、コイ食文化が続くよう、試験研究による種苗生産で支えていきたいと考えています。

表1 コイ種苗総出荷尾数と全雌コイ出荷尾数

年	規格	総出荷尾数	全雌コイ 出荷尾数	全雌コイ 割合
H30	1g	300,000	40,000	13%
R1	1g	685,000	150,000	22%
R2	1g	240,000	23,000	10%
R3	3g	328,000	25,000	8%
R4	3g	420,000	50,000	12%
R5	3g	159,000	4,000	3%
R6	3g	33,000	0	0%



図2 コイ種苗の出荷時の様子



図3 水中でのコイ種苗の摂餌状況